

日常生活の中で、「自分には関係ない」と思いながら、「なんとかしないと」と思い、ずっと気になっていることはないでしょうか。ひょっとするとあなたの言葉や行動が、状況を大きく改善させることがあるかもしれません。自分の身のまわりに困っている人はいませんか。次の文章を読んで、自分にできる行動について考えてみましょう。

篤史^{あつし}が教室に入ろうとした時、中から大きな笑い声が聞こえてきた。良太たち4人のグループがいつものように孝介をいじめていたのである。自分の席に座っている孝介を取り囲み、しつようにからかい、ゲラゲラ笑っていた。

篤史は気づかないふりをして、席に着いた。

しばらくしても、いじめは終わらず、いつもより激しさを増し、机の上にあった孝介の教科書やノートに落書きをし始めた。孝介は下を向いて黙ったままである。しかし、教室の中では、この状況を誰ひとりとめようとする者はおらず、にやにやしている者や全く無視している者ばかりである。

良太たち4人グループと孝介は同じ中学校出身で、篤史は彼らとは違う中学校なので、あまり話をしたことがなく親しくない。良太たちと孝介がなぜこんな関係になってしまったのか知らない。しかし、このクラスでいじめが始まった4月の終わりごろから、篤史は気になっていたが無関心を装っていた。

今日も、心の中では早くこの状況が終わってくれと祈っていた。そんな時、チャイムが鳴ったので、ようやく良太たちは自分の席に着いた。篤史は、ホツとして、大きくため息をついた。

ふと横を見ると、隣の席の翔と目があった。

学校からの帰り道、篤史は、

「今日のいじめはちょっとひどかったな。このままやったらまずいんじゃないかな。」

と親友の健太郎に話しかけた。

すると、健太郎は、

「あいつら、ふざけているだけやろ。まあ、ぼくらには関係のないことや。それより、明日の数学のテスト範囲はどこやった。」

と言って、話はそこで終わった。

その時は反論しなかったが、帰宅しても、篤史は健太郎の言葉が耳に残っていた。

『ぼくらには関係ない。』（本当に関係ないのか？関係ないですましていいのか？でも…）

翌日の休み時間に、また良太たち4人は孝介を取り囲み、からかってワイワイ騒いでいた。篤史は見ないふりをして、次の時間の数学のテストのために教科書を読んでいた。

その時、隣の席の翔が、

「もうやめとけや！」

と良太たちに言った。

良太は、びっくりした顔をして

「おまえには関係ないやろ。」

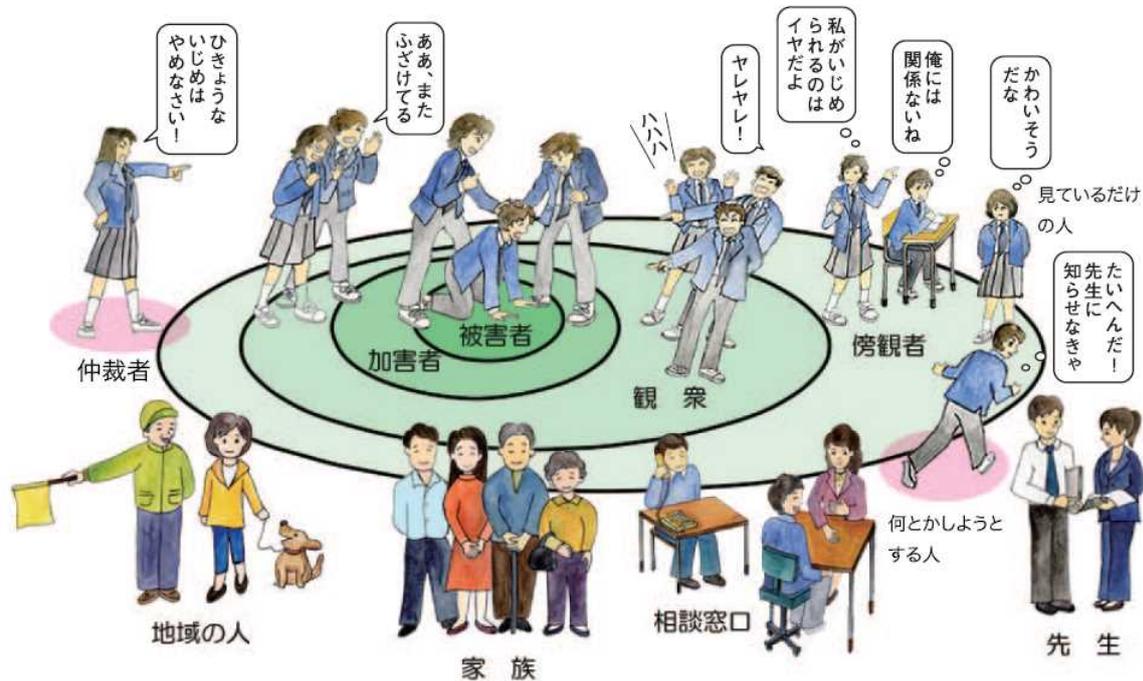
と言いつつ返した。

その言葉を聞いて篤史は、ハツとした。



いじめの四層構造

- いじめの未然防止や解決には、「観衆」や「傍観者」がどのような行動をすることが大切か考えてみましょう。



(出典:「いじめを許さない人権教育教材(高校生用)」兵庫県教育委員会、平成 25(2013)年)

考えてみよう

- 「おまえには関係ないやろ。」という言葉に対して、あなたならどのように返しますか。
 - あなたが篤史と同じような場面に遭遇したとき、できそうな行動はどれでしょうか。また、具体的な声のかけ方、言葉なども考えてみましょう。
- (ア) 加害者に対して、注意をしたり、話をしたりする。
- (イ) 被害者に対して、一緒にいるようにしたり、寄り添って話を聞いたりする。
- (ウ) 観衆や傍観者に対して、一緒にできる行動を呼びかけたり、一緒に考えたりする。
- (エ) 大人に相談や通報をしたり、相談ダイヤルに電話して相談したりする。

いじめを防ぐためには、一人ひとりが「いじめは絶対に許さない」という態度を示し、互いの違いを認め合い、支え合い、助け合える人間関係を築こうとすることが大切です。

また、いじめに限らず、人権侵害への対応については、自分とのかかわりを見出して関心をもつことや、自分だけでなく、誰かと一緒に対応したり、直接行動できなくても誰かに相談したりすることも重要な行動です。